

春告草

第172号 令和2年3月25日 進路指導部発行

5期生から後輩へ

在校生が全員そろって6年生の門出を祝うという本校卒業式のスタイルが確立されたのは、三鷹高校64期生の卒業式だった。高校の閉校式が同時に行われたという事情もあったが、高校の後輩のいない64期生にとっては、違う学校とはいえ、部活動や行事などを一緒に行ってきた「後輩」たちが、中等1年生も含めて在校生全員で自分たちの門出を祝ってくれたのは、嬉しかったに違いない。

その時の卒業式に参加していた中等1年生が、5期生だった。

5年後、新型コロナウイルス感染拡大防止を理由に、5期生の卒業式は卒業生と教職員だけの式典になった。在校生や保護者が参加できなかったのはもちろん、吹奏楽部の演奏もない卒業式は、華やかさに欠けていたことは否めないが、卒業生一人一人の思いと教職員の気持ちが凝縮された式典になった。

今年度最後の「春告草」となったが、卒業生から寄せられた受験体験記の一部を引用して、これから大学受験を迎える後輩の皆さんへのメッセージとしたい。

最後まで自分のペースで勉強したことが志望大合格に結びつく

21年度入試からの英語外部試験導入が見送られたとはいえ、新テスト実施を翌年に控えた20年度私大入試では、前年に引き続き難関大を中心に志願者を大きく減らした。下表に私大グループ別の入試状況を掲載したが、「後がない」状況の中では、前年入試以上に現役志向が強く働いたようだ。さらに、入学定員の厳格化も「志願者減」に結びついたと考えられる。

大学グループ別入試状況

大学グループ	一般方式				センター利用方式				合計			
	18年度	19年度	20年度	20/19	18年度	19年度	20年度	20/19	18年度	19年度	20年度	20/19
主要108大学計	1,970,229	1,978,359	1,945,767	98%	918,010	1,001,456	872,824	87%	2,888,239	2,979,815	2,818,591	95%
早慶上理	212,915	200,291	190,163	95%	35,342	41,431	35,378	85%	248,257	241,722	225,541	93%
MARCH	308,375	292,974	282,024	96%	156,514	154,893	128,996	83%	464,889	447,867	411,020	92%
成成明國武	71,688	72,518	68,731	95%	43,159	46,462	33,329	72%	114,847	118,980	102,060	86%
日東駒専	196,512	202,072	202,967	100%	123,518	125,472	92,427	74%	320,030	327,544	295,394	90%
首都圏理系10大学	161,942	172,769	182,320	106%	102,308	117,962	121,244	103%	264,250	290,731	303,564	104%
首都圏女子14大学	45,243	48,353	46,368	96%	30,945	35,433	25,020	71%	76,188	83,786	71,388	85%

早慶上理:早稲田、慶應、上智、理科大 MARCH:明治、青学、立教、中央、法政 成成明國武:成蹊、成城、明学、國學院、武蔵

日東駒専:日大、東洋、駒澤、専修 首都圏理系10大学:千葉工大、北里、工学院、芝浦工大、東京工科、電機大、東京都市大、東京農大、麻布、神奈川工科

首都圏女子14大学:大妻、学習院女子、共立、白百合、実践、昭和女子、聖心、清泉、津田塾、東京女子、東京家政、日本女子、東洋英和、フェリス

※データは河合塾調べ

「受験は残酷だと思う。どんなに一生懸命勉強しても合格できるかどうかは分からない。ただでさえ大人への過渡期にあって不安定になりがちな時期の我々に、一発勝負である入試の結果はあまりにも不確実だ。(京都大・文合格)」というのが受験生の本音だろうと思う。ともすれば「行きたい大学」ではなく「入れる大学」選biになってしまう傾向もあるが、この心理状況は実力を十分に伸ばしきれないことにもつながり易い。「なぜ勉強するのか。それは、合格可能性をほんの少しでも上げるためである。…(中略)…受験勉強が100%完璧になるということはあり得ないという前提のもと、自分にできることは力の限りやる。(前出生徒)」ということにつきるのだろう。

「最後の模試まで全くいい点数を取れなかった私が志望大に合格できた理由はよくわかりませんが、最後まで

自分のペースで勉強したこと、一緒に勉強する人がいたことではないかと感じます。(東京農工大・農合格)」

「受験は本番が全てです、いつ志望校を決めようが、いつから受験勉強を始めようが、どれだけ模試の判定が悪くろうが、本番に点数が取ればそれでいいのです。受験を終えて、余裕と自信を持っている人が合格しているように感じます。(慶応義塾大・総合政策合格)」と述懐しているように、気持ちのゆとりを持つことは長い受験生活を乗り切るための必要条件だろう。

日々の地道な努力が合格へつながる

気持ちのゆとりが必要条件だと書いたが、もちろん余裕綽々で受験生活を送った人は誰一人としていないだろう。「合格最低点を調べたうえで、各科目の目標点を決め、現在の自分が取ることのできる点数とのギャップを確認する作業が不可欠である。(京都大・工合格)」と書いてくれた人もいたが、現在の自分の学力的立ち位置を冷静に分析し、合格までの道のりをプランしなければいけない。「センターはもちろん、志望大でもリスニングが大きな比重を占めていたため、リスニングにはより多くの時間を費やした自信があります。…(中略)…リスニングはもともと得意な分野ではありましたが、それをさらに伸ばすことができた秘訣として『ネイティブの発音を知ること』があったと思います。(東京外国語大・国際社会合格)」と書いてくれた卒業生は、TEDにアップロードされている講演を何度も何度も聞くことを繰り返したそうです。次世代でアメリカに1年間の留学があっても最初はやはり難しかったようですが、「あっ、聞こえた」という経験を繰り返して、リスニング力を高めることができたと言っています。

AO入試の志望理由書作成には想像以上の時間と労力 しかし英語学力は確実に上昇

21年度入試から、推薦入試は学校推薦型選抜、AO入試は総合型選抜へと名称が変わり、募集人員も増加傾向にある。しかし「再三述べるが、推薦入試は大変である。最後までやり切れる自信のある者、かつ推薦入試で落ちてもモチベーションを保てる者にはぜひ挑戦してもらいたい。(筑波大・生命環境推薦合格)」とアドバイスを送っているように、リスクは大きい。「貴重な夏休み期間中に、一般入試の対策とAO入試の対策を同時並行するのはリスクが大きいです。…(中略)…(しかし)英語での志望理由書作成や筆記試験対策の結果、英文を読み、英語で思考するスピードは格段に上がり、筆記でも筋の通った英文を短時間で書き上げる力がつきました。(東京外国語大・国際社会合格)」と書いた生徒は、早稲田大のAO入試は不合格だったものの、一般入試ではリベンジを果たしています。

東京都立大の名称が4月から復活しますが、首都大時代より同大のゼミナール入試は広く注目を集めていた選抜システムでした。1年間(もしくは2年間)大学に通い、ゼミナールにおける活動内容が評価されて合否が決定します。今年はそのゼミナールに参加して、見事「ゼミナール入試」で合格を果たした生徒もいました。受験勉強との両立は大変だったはずですが、同じ分野を志望する仲間との活動が刺激的で、そこを目指す気持ちも一層強くなったと振り返っています。次年度のゼミナール生募集も4月から始まります。出願するかどうかは別として、生き活きとゼミナール活動を送ることができた卒業生の感想の一部を最後に紹介しておきます。

「ゼミナール入試は、楽しむことのできる入試でもあった。…(中略)…生物学を学ぶ同士でコミュニケーションをとる場は非常に刺激的なものであった。…(中略)…ゼミでは他校生や教授とコミュニケーションをとる場面が多い。質問、相談、議論など目的は様々だが、どれも生物学への情熱となり楽しい。他校生が行う自主研究の話には感銘を覚えるし、教授が語る研究には未来への期待感を得られる。(ゼミナール入試合格)」

最後に前出の京大・文合格者のメッセージを紹介します。「勉強すれば結果がついてくる訳ではない。が、結果は勉強しないといついてもこない。」やるっきゃないのです。覚悟を決めて、受験勉強をスタートさせましょう。

都立大 ゼミナール入試ゼミナール生募集

東京都立大学では来年度ゼミナール入試のゼミナール生を募集している。

募集しているのは理学部生命学科と都市環境学部地理環境学科の2学科で、4月1日から募集が行われる。

1学期から夏休みにかけてゼミナールが実施され、10月には合否が決定する。

募集対象は高校3年生、中等教育学校6年生だが、理学部生命学科は前期ゼミナール・サマーセッションに高校2年生、中等教育学校5年生の参加も可能である。

詳細は大学ホームページを参照すること <https://www.tmu.ac.jp/entrance/faculty/outline/ao.html>

※春告草78号に関連記事あり。(バックナンバーは本校ホームページに掲載してあります。)

5期生の大学受験を振り返る

5期生担任 進路指導担当 長谷川 祐子

卒業式の答辞でも述べていたが、学校が好き、先生が好き、行事や部活に情熱を燃やし、盛り上がる時は皆で一致団結して、と真面目で控えめながらも学校生活を精一杯謳歌した学年だった。これは3年間皆勤の生徒が卒業生の一割に当たる15名、精勤者も多数おり、遅刻指導もさほど手を焼くことがなかったことから見て取れる。歴代の6年生と同じように、慣れ親しんだ自習室や大会議室、教室など学校で学習する生徒が多く、センター試験後や国公立大学前期試験前までも多くの生徒が登校し、勉強を続けていた。

5年生後半

鷹校祭、台湾修学旅行、部活、生徒会と受験を意識しつつも、学校生活の中心の学年として後輩たちを指導し、全体をまとめ、さまざまな場面で活躍する姿が見られた。この時期には、受験勉強よりも授業中心の勉強で部活動や行事にも全力投球していたが、中にはそろそろ志望大学を固め、第一志望校を目標に定め受験勉強をスタートさせる生徒も見られた。そんな中、12月末に西湖湖畔で勉強合宿を行った。教科によっては授業の先取りや演習が行なわれ、センター試験用問題を解いて実力を確認し、リスニングテスト模試も2回実施した。空き時間には自主的・計画的に自習を行い、早朝から夜間まで熱心に勉強した。受験勉強がいよいよ始まる、という雰囲気多くの生徒が共有した合宿であった。この後、1月のセンター試験同日模試あたりから受験生としての意識が本格的に出てきたように思う。

6年生1学期

この時期には、塾や予備校に通い始めたり、部活を引退する生徒が増え、受験勉強に本格的に突入したという様相を呈してきた。塾に通うか否かは生徒各自それぞれの判断であって、必要ならば塾に行くことも悪いことではないが、必ずしも塾に行かなくてはならないということはない。5期生の中には、最後まで学校や自習のみで受験勉強を貫徹し、合格を勝ち得たものも数多くいる。ただ一つ言えることは、塾や予備校の授業と学校の授業のバランスが大事で、後者をおろそかにして結果を残した例はほとんど耳にしない。学校の授業と受験勉強は大きさの違う歯車のようなもので、両方がうまくかみ合って初めて大きな前進力を生み出すのである。また、部活動と受験勉強との両立は大変であるが、部活を最後までやりきったという達成感をバネに、その後の受験勉強に気持ちを切り替えることで、見事栄冠を勝ち得た者もいた。6月に行われた合唱祭では、練習時間があまり取れない中、昼休みや放課後のわずかな時間を利用して練習し、期待以上の見事な結果を残してくれた。集中力とやる時はやるという鷹校生の力強さを感じることができ、そのパワーは受験期まで継続していったように思う。

模擬試験について言えば、6年生になるとほぼ毎月のように行われるが、その結果に一喜一憂せず、苦手分野を確認するという目的に使うと効果的であると思われる。最初から3教科ほどに絞った私立型受験の生徒もいたが、国公立型受験者が多いのも本校の特徴である。6年生のこの時期以降、国公立型から私立型に変更した生徒は少数で、第一志望の国公立大学に合格できなくても、併願する難関私大の合格を勝ち取っていた生徒が多かった。

6年夏休み・2学期

夏休みに入ってすぐ行われるのが三者面談である。この時決めた第一志望は最後まで変えずに貫いていって欲しい。夏休みは夏期講習などに参加して、計画的に勉強しよう。中には1日15時間などという強者もいたりするが、学校や塾の自習室をうまく利用し、10時間程度を目標に毎日継続していきたい。勉強の成果がすぐに表れず辛い時期ではあるが、難しい受験問題を解くことより、基礎力の強化や苦手科目の克服に重点を置く時期である。現役生は基礎力があれば、入試問題対策は直前で十分間に合う。基礎を固めてこそ、その後の発展のチャンスがあるのだ。

2学期が始まるとすぐに鷹校祭。6年生は短い準備期間にも関わらず立派な発表を行い、一人一人が楽しんでいた。部活動によっては引退が遅かった生徒も、この時期は遅れを取り戻すべく猛烈に勉強をしていた。一方で、2学期に入っても受験勉強のペースがつかめていない生徒は、そのまま受験に突入し、思うような成果をあげられなかったように思う。

この学期で大切なことは、積極的に外部模試を受けることである。出題傾向が違う模試を受けることの必要性和共に、外部で他校、浪人の生徒に混じって受験する経験が大切である。普段緊張しそうなもない生徒が、受験本番であがつてしまい、思うように成果を出すことができなかったという話も聞いている。河合塾や駿台の記述・マーク試験だけでなく、東大、京大、早慶など各大学の冠(かんむり)模試を受けよう。この時期の冠模試でA、B判定が出たら自信とし、逆に、C、D判定でも、まだまだ実力が足りないと、モチベーションを高めるきっかけにしていって欲しい。

受験期

秋になると推薦入試やAO入試などが始まる(※次年度大学入試より名称が変わることは表面でも触れた。募集時期なども遅くなるなどの変更点ある。再確認しよう)。今年度は翌年の新テスト導入を控え、例年以上に安全・安定志向が見られ、この時期に各大学の推薦・AO入試を利用して進路を決定した者もいた。併願可の学校に合格した生徒は一般入試に向けて受験勉強を継続していた。推薦・AO入試はメリットもあるが、準備のために相当の時間と労力をとられるうえ、不合格であったときの精神的なダメージが大きいので、安易に推薦・AO入試を受けることは避けるべきである。しかしながら、志望に合致し、受験機会を一回でも増やしたいという強い思いがあり、万が一不合格だった場合はどうするか、本人だけでなく保護者を含めて善後策を担任の先生と十分に確認した上でならば受験に臨むことは、選択肢の一つとして有効であろう。勿論、学習活動以外にもさまざまな活動実績を持つことが前提ではあるが。

11月末から12月上旬は、調査書申請前の2者面談を行い、出願校を相談した。国公立大学を第一志望とする生徒の多くが前期だけでなく後期日程までを視野に入れていた。センター利用入試も含めて、私大の出願校もこの時期にほぼ決定する。

今年はセンター試験の日程が比較的遅く、3学期の授業では英語、リスニングを中心にセンター試験対策を行った。空き時間には、それぞれがセンター試験科目を中心に勉強していたが、私大入試がすぐ始まることもあり、各大学の赤本を解いている姿も見られ、センター試験対策と個別試験対策をバランスよくやっていたようである。

センター試験は、前年度と比べて国語・数学・英語の平均点が下がり、中でも数ⅠA、英語筆記の大幅ダウンは本校生徒の出願状況にも大きな影響を与えた。やはりここでも安全・安定志向が見られ、少しでも合格の可能性が高い大学へ出願する傾向が見られた。こうした中で言えるのは、センター試験で満足のいく成績を残した生徒は、国公立・私立を問わず、その後の試験でも好調であり、精神的にも安定して受験を乗り越えていったようである。

センター試験後は通常の授業に替わって、教科ごとの講習や個別指導が行われた。この時期、塾の自習室に通い学校にほとんど来ない生徒もいたが、例年通り、朝早くから夜遅くまで、教室、3講、大会議室、図書室、極寒の階段踊り場など、自分なりの勉強空間を見つけて受験勉強に取り組んだ生徒が多かった。進路室の赤本を借り、過去問対策を中心に学習し、小論文や英作文などを個人的に指導してもらっていたが、同じ志望大学の人や気の合う仲間と一緒に勉強していたのもこの6年間で共に過ごす友のいる学校ならではの、という気がする。勉強の合間におしゃべりしたり、昼食を一緒に食べたりと、受験を仲間と一緒に乗り越えたという印象である。

受験を終えて

結果については、予想通り第一志望校に合格した人、第一志望は不合格だったけれど結果的に抑えの大学に合格した人、併願校には合格したけれど浪人する人、残念ながら全落ちした人などさまざまであった。

3月23日までに判明した結果は、表に示すとおりで、現役理系では初めて京都大、公立大医学部医学科に合格者を出すことができた。海外大学に進学先を決めた生徒もいる。

担任団としては、希望の大学に合格した人には「おめでとう」と、残念ながら希望通りではなかった人にも「よく頑張りました」と言いたい。1年近く、あるいはそれ以上の長い期間、受験勉強に全力で取り組んだすべての生徒には心から拍手を送りたい。

合否発表は確かに一つの到達点ではあるがゴールではなく、卒業後の新たな進路・目標に向けての出発地点であるのだ。受験勉強を通じて得た自らの力を信じ、次のステップを力強く踏み出して欲しい。

来年度の新テスト導入を控え、記述問題が増え、入試の出題傾向が変わりつつあるが、新6年生には、これまでに積み上げてきたさまざまな力をもって、望みを高く掲げ、大学受験とその先にある目標を目指し、希望の進路を実現させて欲しい。

令和2年度大学入試 主要大合格状況

北海道大	2	都留文科大	1
東北大	2	金沢美術工芸大	1
筑波大	2	和歌山県立医科大	1
電気通信大	3	早稲田大	15
東京医科歯科大	1	慶應義塾大	5
東京外国語大	3	上智大	9
東京海洋大	1	東京理科大	5
東京学芸大	1	青山学院大	9
東京農工大	2	中央大	13
横浜国立大	2	法政大	28
京都大	2	明治大	39
神戸大	1	立教大	10
九州大	1	学習院大	2
東京都立大	6		

※現役生のための集計である。(2020.3.23 現在)